

「令和7年度教育活動について」の中間報告

玉野市立八浜中学校
校長 児山 幸

教育活動に関するアンケートは、本校の教育活動を学校だけでなく、全生徒や全保護者の方々にも診断していただき、その改善に役立てるために実施しております。

別表のアンケート結果には、それぞれの回答のうち、「4：よく当てはまる」及び「3：当てはまる」を肯定的なご意見ととらえ、その割合を掲載させていただきました。

○生徒の回答からの分析

生徒の回答に関しては、26項目の質問に対して23項目で昨年度同期の調査結果を上回りました。特に「授業に前向きに取り組んでいる」「自分の将来の生き方について考える機会があり、進路に関することを学習できている」「学校生活の中で責任をもったり、周りの人のためになる活動をしている」「進取の気持ちを持ち、果敢に挑戦することができている」など、肯定率が90%を超えるものが13項目ありました。

課題としては、「宿題や予習・復習などの家庭学習にきちんと取り組んでいる」「インターネットなどの情報機器の使い方や正しい利用について学習できている」「決まりを守ることの大切さを学習できている」「自他、家族、学校、地域を愛し、誇りをもって生活している」の肯定回答が全設問の中では低い数値でした。

○保護者の回答からの分析

保護者の回答に関しては、ほとんどの質問に対して昨年度同期の調査結果を下回りました。特に学習面に関する項目で、保護者の肯定ポイントが大きく低下していました。

現在、中学校では「主体的・対話的で、深い学び」「協働的な学び」が重視されています。生徒が自分自身や仲間と考えて課題を解決する授業や話し合い活動を取り入れて展開する授業を進めており、生徒の授業に向かう姿勢や興味が高まってきました。一方で、「学習の基礎・基本の定着」という面では、個人差はあるものの、全体として十分満足できる状況ではありません。そういった現状への心配や進路選択への不安が保護者の方の肯定ポイント低下の一因となっているのではないかと考えています。

生活面では、情報機器の使い方やきまりを守る意識に関して、課題があると分析しました。また、相手を傷つける言葉、SNSでの不適切な表現などからトラブルになることがあります。人権意識、お互いを認め合う気持ちの向上を目指し、粘り強い指導を続けます。

○今後の教育活動に向けて

学習面では、生徒のやる気を引き出す授業展開を継続しながら、学力の基礎基本の定着が図れるよう、授業内で単元ごとの既習内容や達成度の確認に力を入れていきます。また、学校での学習の取組や教科の課題が保護者の方にも確認できるような情報発信を検討していきます。

生活面では、普段の言葉遣いやコミュニケーション方法についてアンテナを高くし、気になる言動はその場で声かけをしていきます。また、教育相談以外にも、生徒が困ったときに相談できる環境づくりを進めていきます。生徒の言葉遣いやコミュニケーション方法については、ご家庭においても機をとらえてお話いただくと共に、気になることがあれば早めに学校にご相談ください。

○記述のご意見について

本校生徒や学校の良い点、改善点について、両面のご意見を数多くいただきました。学校では、個別のご意見も参考に、より良い指導や個に応じた指導ができるように工夫し、改善策を講じていきたいと考えています。ありがとうございました。